

# 企業ニュース 富士フィルムホールディングス

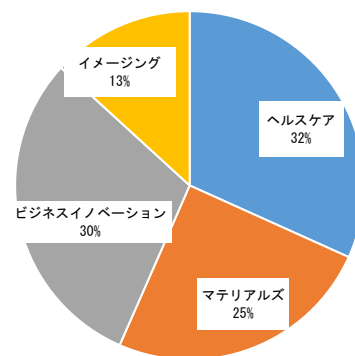
(東証プライム : 4901) <https://holdings.fujifilm.com/ja>

作成者: 兵藤三郎

## 写真フィルムメーカーからヘルスケア企業に

1934年、大日本セルロイド (現ダイセル) の写真フィルム事業を分離継承して富士写真フィルムを設立。2006年、持ち株会社体制に移行し、現社名へ改称。創業事業である写真フィルムは、デジタル化の流れにより需要が減少、事業の構造改革を断行した。写真フィルム製造で培った技術を応用し、事業領域を拡張、近年では、ヘルスケア事業を事業買収なども活用し成長させている。サブセグメントのメディカルシステムでは2021年3月に日立的の画像診断関連事業を買収。バイオCDMO (医薬品開発製造受託) は2011年にメルク社のバイオ事業買収により参入、以降買収及び能力増強投資を続け、北米の拠点ではノババックス社の新型コロナワクチンの製造を受託。バイオCDMOの22.3期売上目標は2,000億円、22.3期実績比33%増。

◇22.3期売上高構成比



(出所) 富士フィルムホールディングス資料より  
CAM作成

## 23.3期全事業セグメントで増収増益の計画

22.3期の連結業績は、売上高が2兆5,258億円、前期比15%増、営業利益が2,297億円、同39%増。新型コロナ影響からの順調な回復に加え、ヘルスケア及び電子材料の伸長により大幅な増収増益、営業利益は過去最高を更新した。ヘルスケア事業は日立的の画像診断関連事業を連結子会社化したメディカルシステム、バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したバイオCDMOが共に大幅伸長、売上高・営業利益共に最大のセグメントに成長した。原材料価格上昇の影響は受けたが、為替の円安推移も増益寄与した。

23.3期の会社計画は、売上高が2兆6,500億円、前期比5%増、営業利益が2,450億円、同7%増。ヘルスケア、高機能材料を中心とした事業成長に加え、各事業の収益性向上、為替影響などにより、部材不足影響やコスト増を跳ね返し、増収増益を達成する。全事業セグメントで増収増益の計画。為替影響は185億円の増益要因、前提はドルが120円、ユーロが132円。原材料価格高騰の影響は185億円の減益要因として計画に織り込んでいる。

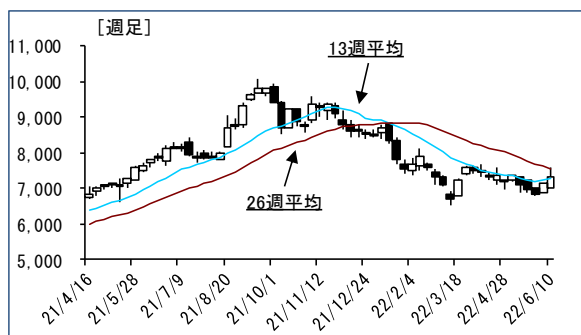
### [株価動向・投資判断]

全事業での増収増益の計画。為替水準は期初計画からかなり円安で推移しており、アップサイド要因となろう。

<4901 富士フィルム 業績:米国基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.3	2,192,519 (▲5)	165,473 (▲11)	235,870 (36)	181,205 (45)	453.3	100.00
22.3	2,525,773 (15)	229,702 (39)	260,446 (10)	211,180 (17)	527.3	110.00
23.3 予	2,650,000 (5)	245,000 (7)	255,000 (▲2)	192,000 (▲9)	479.1	120.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価 (2022/6/10)	7,315 円
年初来高値 (高値日)	8,823 円 (22/1/11)
同 安値 (安値日)	6,514 円 (22/3/9)
予想 P E R (23.3 予)	15.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	6,244.3 円
P B R	1.17 倍
予想配当利回り	1.64 %
(1株当たり配当金年120.00円)	
R O E (22.3)	9.0 %
発行済み株式数	51,463 万株